



うしお会 会報

目指せ次世代チャンピオン！
アーチエリー

大貫 涉さん

同窓生 活躍人！

今回の同窓生活躍人、トップバッターアーチエリーで東京オリンピック日本代表を惜しくも逃した大貫涉さんです。東京オリンピックでの大活躍を祈っていましたが…：コロナ騒動もあって残念な結果になりましたが、捲土重来を期待しています。

大貫さんは48期生。2018年の世界フィールドアーチエリー選手権で世界チャンピオンになり、オリンピック日本代表候補になった逸材です。今回は大貫さんが現在所属する(株)サガミ(横須賀市衣笠)を訪ね、お話を伺いました。大貫さんはサガミで午前中仕事をして、午後は久里浜花の国で練習をという毎日です。

（大貫さんの経歴を教えてください。）

浦郷小から追浜中学、追浜高校を卒業して、立教大学に進み、現在(株)サガミの社員として仕事をしながら、オリンピック強化選手として日々を過ごしています。アーチエリーを始めたのは小5の時です。父が大学

ハイに出場しました。大学は立教大学に進みアーチエリーを続けました。卒業後、地元の(株)サガミに入社、会社ぐるみの支援をいただいています。仕事も頑張っていますよ。

（東京オリンピックへの道のりは？）

2019年11月の予選で男女それぞれ16名が出場し、候補8人に絞られ今年3月の選考会で更に上位5名に絞られ、5月の最終選考で上位3名がオリンピックに出場します。(大貫さんは一次予選1位で通過しましたが、残念ながら3月選考会で敗退しました。)

（追浜高校の思い出は？）

自由な校風で、本当にやりたいこ

とをやりたいようにやらせてくれました。アーチエリーでも支えてもらいました。ひとつ覚えているのが、1年生の時の担任が国語科の広瀬先生だつたんですが、40人のクラスメイト同士4月からみんな下の名前で呼び合うように提案され、全員すぐには仲良しになれたんです。さすが高校生と思いました。文化祭で実行委員をやつたのですが、先輩の「キマグレン」が突然登場！ものすごく盛り上がったのを覚えています。

もちろんオリンピックに出たいと思いますが、今は通過点だと思っています。今後更に成長して、常に世界でトップを狙える選手になりたいですし、アーチエリーという競技の未来のために、子ども達に引き継いでいきたいと考えています。

（追浜の後輩に望むことは？）

ぜひ自分のやりたいことを見つけて、やりたいことをやってください。そしてやっていることに自信を持つて欲しいですね。アーチエリーをやっていても、何故この練習をするのか、

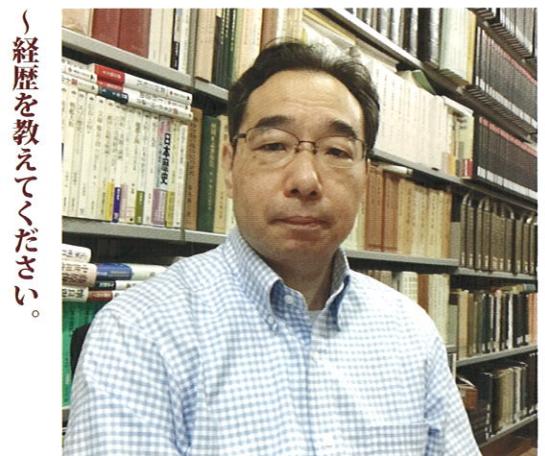


何でこんなに苦しい思いをするのかつて、悩むこともありました。大学時代に負け、挫折を味わい、途中で投げ出したくなつた時もありましたが、何とかあきらめずに自分の信念を貫いてこれたので、今の自分があると思います。今も毎日継続的に練習していますが、練習をとことんやつて、練習でできることを、試合で再現させることができ大事だと思っています。

あきらめずに、日々努力する。ここに尽きると思っています。

同窓生 活躍人!

國學院大學 文学部教授
高橋秀樹さん
(17期生)



「経歴を教えてください。」

青葉小から坂本中学を経て追浜高校に入学しました。高校卒業後は学習院大学文学部史学科に進み、同大

学院修了後、国立歴史民俗博物館非常勤講師、東京大学史料編纂所研究員、文部科学省教科書調査官などを歴任後、國學院大學文学部准教授を経て、2019年から國學院大學教授を務めています。

「三浦一族研究会」について教えてください。

今年で24年目になる横須賀の研究会です。会員は500人近くいます。講演会・歴史散歩の会のほか、「吾妻鏡を読む会」を月に2回20人くらいでやつており、私も講師として参加しています。追浜高校2期生の森敏晴さんもメンバーで、現在中心となつて活動されています。研究会では毎年機関誌を発行し、研究の成果を発表しています。三浦半島以外の県内各地はもとより、東京・千葉などからも熱心に参加して下さる方がいて、これまで活動されています。大学で現在まで活動されています。大学でも中世史を専門に研究されています。

「歴史に興味を持つたきっかけは?」「卒業生・在校生に向けてメッセージを

自分が「楽しい」と思うことをやつしてください。楽しいと思わない長続きしないですね。気乗りしなくても、「面白い」と思えることを見つけるまで、とことん付き合つてみてください。「面白い」と思えることが見つかれば始めたものです。私は今、歴史学を学んでいますけれど、歴史は過去の遺物じゃなくて「今」を映す鏡なんです。今を生きる道しるべ

中世史を研究されている歴史学者の中世史をお二人目は、日本の高橋秀樹さんです。三浦半島の歴史と言えば、「三浦一族」を抜きには考えられないですが、横須賀市には「三浦一族研究会」という平成8年から24年間続く研究会があり、高橋さんも発足当時から特別研究員の一人として現在まで活動されています。大学で係するサークルがなかったので、部

活に入らず本ばかり読んでいました。本の虫、歴史オタクだったと思います。高2くらいから真剣に研究者を目指すようになって、中世・鎌倉時代を遊びたいと思い、当時、本を通じて知った安田元久先生が教鞭をとつていた学習院大学史学科を目指すようになりました。中世史を勉強したい、三浦一族について研究したいという思いはその頃からぶつ正在といふことになりますね。今は公家日記や『吾妻鏡』を中心に研究を進めています。『吾妻鏡』は中世の鎌倉時代を見直していく上で、本当に貴重なテキストで、様々な発見があります。

今年で24年目になる横須賀の研究会です。会員は500人近くいます。講演会・歴史散歩の会のほか、「吾妻鏡を読む会」を月に2回20人くらいでやつております。私も講師として参加しています。追浜高校2期生の森敏晴さんもメンバーで、現在中心となつて活動されています。研究会では毎年機関誌を発行し、研究の成果を発表しています。三浦半島以外の県内各地はもとより、東京・千葉などからも熱心に参加して下さる方がいて、これまで活動されています。大学で現在まで活動されています。大学でも中世史を専門に研究されています。

会です。興味のある方、参加したい方は横須賀市役所文化振興課内にある研究会事務局にご連絡ください。

「追浜高校時代の思い出は?」

過ごしやすい学校でした。強制されないし、多少踏み外しても許される感じがしました。「眞面目」って嫌われそうですが、それもみんな許すんですね。様々なキャラクターがいるといふことになりますね。今は森君も同級生ですが、多士済々、世界的指揮者として活躍している飯森君も同級生ですが、多士済々、という気がします。授業中でもあまり面白くないなと思うとひたすら好きな本を読んでいましたけど、怒らなかつたな(笑)。あと鷹取川は臭かつたですね。風向きによつては窓も開けられなかつたですよね。今はもう匂わないって本当ですか(笑)。



東京都世田谷区、大井町線の尾山台近くにある「蕎麦前ながえ」です。開店3年目ですが2020年度ミシュランガイドで「ビブグルマン」今回も卒業生のお店を紹介します。

「蕎麦前ながえ、」

中溝伊織さん
(34期生)

同窓生 活躍人!

だつたり、今を生きるために必要なことを教えてくれるんです。今になつて歴史を学ぶ面白さを改めて知つたような気がします。

のお店として紹介され、雑誌「ダンチューム」でも2020年3月号で新進気鋭の店として紹介される人気店です。

「お店を開くまでの経歴を

追浜を卒業するときに、親や担任の反対を押し切つて、大学に進学せず、音楽の専門学校に進みました。

高校でもバンド活動をやつていたんですけど、バンド活動を続けるために専門に進み、21歳の時から5人の仲間とバンドを組み、インディーズでデビューしてアルバムも2枚出し、ツアードで全国も回りました。ツアードで日本各地の美味しいものに出会つたのは、今につながつていてるかな。もちろんバンドだけでは食つていけないので、居酒屋でアルバイトしていました。(賄い付きが魅力でした)

バンド活動と並行して居酒屋でも頑張つて調理師免許も取得しました。2008年にバンドを解散して本格的に食の道で生きていくこと、日本料理店に移りました。そこで料理も酒も残さず満喫してもらえる料理店を持ちたいという夢を持つようになつて、蕎麦屋飲みというスタイルが一番理想的だと思いました。29歳の時に本格的に蕎麦屋修行に入りましたが老舗で追い回しからやる年齢的な余裕はなかつたので、早くから

蕎麦打ちも経験できるお店で修業しました。自分の個性を生かせるお店のスタイルを求めて仕事の休みの日も食べ歩きました。店でも閉店後に寝る時間を削つて修行していました。遅いスタートだったから必死でしたね。蕎麦の師匠を求めて伊豆にも行きました。

36歳の時に自分の店を持つために勤めを辞め、2017年に今の尾山台の店を開きました。

「怒涛の20年間でしたね。これからどんなお店を目指したのですか?」

新しい時代の蕎麦前、お酒を提供できる店です。蕎麦の素材、料理の素材に徹底的にこだわっています。お酒も自分にとつて縁が深いと感じられるもの。妻と二人で必ず味見して納得のいつたものを出しています。残さず食べて飲んでもらつて、美味しいと言つてもらえる店ですね。

「伊織さんの高校時代は?」

軽音楽部で1年の時からバンドを組んでいました。学外の仲間ともバンドを組んでいました。僕はベースです。3年の時の文化祭の後夜祭で後のキマグレンで活躍する同級生の井関たちと演奏しましたね。追浜は窮屈じやない自由な学校でした。本当に色々な出会いがあつて、40歳近くなつても思い出深いです。



「蕎麦前ながえ」 Tel 03-3701-6050
東京都世田谷区等々力 4-9-3 M's Garden 尾山台 尾山台駅より徒歩2分
営業時間 昼 11:30~14:00 夜 18:00~21:00 定休日:火曜日
※予約はお酒を楽しむ方に限ります。夜の未成年者の入店は不可です。

「同窓生、高校生にメッセージを

生きていて無駄なことはないと思うんです。障害があつてもぶつかってみることです。本氣で立ち向かえば壁を乗り越えられるし、自分といふ人間がわかると思うんです。

「お店の未来について

今はパートナーの妻と二人でやっていますが感謝しかないです。毎日80点を目指しています。日々変化の欲求もあります。1日として同じ日はないですから。

今はパートナーの妻と二人でやっています。24時間二人だけの世界ですから、これからも二人で前に進んでいきたいと思っています。

青春かながわ校歌祭

卒業生のみなさん！現役生のみなさん！「校歌祭」にぜひ参加してください。
追浜高校卒業生・在校生の年齢の枠を超えた絆を「校歌祭」が結んでいます！




3期生の秋元さん、目黒さんが中心となり、当時のうしお会会长の2期生進藤さん、追浜高校校長の小西さん（6期生）の協力を得て、卒業生、在校生に広く参加を呼びかけ、本番では91人がステージに立ち、「校歌」「応援歌」「逍遙歌」を歌いあげました。

以来一昨年の第13回まで毎回120人近い同窓生、現役生、恩師がステージで他を圧するパフォーマンスを披露してきました。（昨年の第14回は台風で中止）

当日のステージも校歌祭の魅力ですが、毎年追浜高校音楽室をお借りして実施している練習も校歌祭の魅力です。本番でも指揮を執る西野さん（4期生、横須賀交響楽団常任指揮者）の指導の下、毎年本番前に4回練習を重ねています。卒業してから初めて母校の校舎に入りました！と懐かしく校舎の廊下を歩きながら、皆さん、10代の高校時代に一瞬にして戻るようです。「うあー、全然変わつてない」「学食もある」「体育館新

平成18年に県内22校の県立高校が参加してスタートした「青春かながわ校歌祭」。追浜高校は平成22年の第6回目から参加しています。

3期生の秋元さん、目黒さんが中心となり、当時のうしお会会长の2期生進藤さん、追浜高校校長の小西さん（6期生）の協力を得て、卒業生、在校生に広く参加を呼びかけ、本番では91人がステージに立ち、「校歌」「応援歌」「逍遙歌」を歌いあげました。

以来一昨年の第13回まで毎回120人近い同窓生、現役生、恩師がステージで他を圧するパフォーマンスを披露してきました。（昨年の第14回は台風で中止）

当日のステージも校歌祭の魅力ですが、毎年追浜高校音楽室をお借りして実施している練習も校歌祭の魅力です。本番でも指揮を執る西野さん（4期生、横須賀交響楽団常任指揮者）の指導の下、毎年本番前に4回練習を重ねています。卒業してから初めて母校の校舎に入りました！と懐かしく校舎の廊下を歩きながら、皆さん、10代の高校時代に一瞬にして戻るようです。「うあー、全然変わつてない」「学食もある」「体育館新

今年は追浜高校が運営担当校として、10月10日に横須賀芸術劇場で開催予定でした。他校に負けない校歌祭にしよう！ということでき、昨年から準備委員会を立ち上げ、着々と準備を進め、練習日程も決まり、「さあスタート」という矢先に、皆さんご存じの通りコロナ感染に伴う自粛、県立高校等の休校、そして様々な事業・行事の見直しの中で、本年の校歌祭の中止が決りました。

来年度の校歌祭は昨年運営担当校だった鶴見高校運営担当にあたり、追浜高校は再来年の2022年度の運営を担当します。

2022年の校歌祭に向けて、実行委員会もうしお会も、前向きに再スタートを切ります。

運営担当校として、200人を超える参加者がステージに登つてもらい、1期生から60期生まで世代を超えて集まり歌声を響かせることを願っています。ぜひ来年、再来年と参加してください。「歌は苦手」「校歌も覚えてないし、



(一昨年の神奈川県立青少年センターでのステージ)

応援歌や逍遙歌なんて知らない」「が建つてゐる！」こうした声が飛び交うのも校歌祭の魅力。ぜひ練習から参加してください。うしお会ホームページでご案内します。

今年度も参加を依頼した追浜高校現役の吹奏楽部、チアダンス部には2022年度にも舞台に立てもらいたいと思っています。

ぜひ2022年度に向けて、参加をご検討ください！

生もいます。

今年度も参加を依頼した追浜高校現役の吹奏楽部、チアダンス部には2022年度にも舞台に立てもらいたいと思っています。

ぜひ2022年度に向けて、参加をご検討ください！

生もいます。

うしお会 コンサート

追浜高校卒業生には音楽大学などへ進学し、音楽の世界で活躍している方が何名もいることをご存知でしょうか。指揮者の飯森範親（17期生）さんはあまりにも有名です。前うしお会会长進藤さんは横須賀芸術劇場の立ち上げにも携わったということもあり、数年前より「よい劇場で追高卒の音楽家の方の演奏会を開きたい！」という想いがありました。私たちうしお会幹事は手探りながらも、2017年6月30日（金）、記念すべき第一回目のうしお会コンサートを催しました。会場はヨコスカ・ベイサイド・ポケット。お客様は180名ほど）来場頂きました。出演者は竹内陽子さん（ピアノ／26期生）、和田朝妃さん（メゾソプラノ／43期生）、蛇目泰子（ソプラノ／29期生）、渡邊達徳さん（ヴァイオリン／47期生）、吉川直貴さん（オーボエ／47期生）。皆さんが日頃取り組んでいる曲目を披露して頂きました。そして校歌祭メンバーの有志も校歌や応援歌を高らかと歌いました。残念ながら初開

催の前年に逝去された天國の進藤さんにもその演奏はきっと届いたと思います。追高の卒業生はもちろん、他のお客様もとても楽しんでくださいました。また、ロビーでは追高グッズの販売も好評でした。「世代を超えて和気あいあいとした雰囲気でとても良かつた！」とお声がけ頂きました。

翌年2018年は9月22日（土）に同会場で、第一回が開催され渡邊知子さん（ピアノ／18期生）、松永知史さん（ソプラノ／32期生）らに出演頂き、前

年に引き続きオペラや器楽のクラシックを中心とした演奏会になりました。特に国内外で活躍される松永さんの美しい歌声に会場中が魅了されました。加えて客席にいらした横高出身のオペラ

法起草の碑や貝山緑地の予科練誕生の地碑など見所を絞り半日楽しく歩きながら、毎回新しい発見のある歴史散歩です。4期生で郷土史に詳しい青木さんを講師にお迎えして散歩を楽しんだ年もあります。

来年度は「山は鷹取」の鷹取山を中心には散歩コースを考えています。うしお会ホームページでも参加要項を掲載する予定ですので、ぜひご参加ください。こんな六場がありますよ！

第三回目は2019年9月29日（日）、ついに一期生の城所潔さん（ピアノ）に出演頂き、幅広いジャンルの演奏をして頂き、



（29期生 蛇目泰子）

お客様を虜にしました。永阪玲子さん（ソプラノ／31期生）、吉川裕之さん（クラリネット／37期生）もとても素晴らしいパフォーマンスでした。

そして2020年第四回目、と続きたかったのですが新型コロナウィルスの影響で今年は残念ながら中止となりました。まだまだ手作りのコンサートですが、他にも逸材がいると情報を得て、今まで更なる発展した『うしお会コンサート』を作つて参ります。

追浜歴史散歩

一緒に歩きませんか？

校歌祭の実行委員のお一人である3期生の角井茂さんの発案・企画で「校歌・遙歌・応援歌」で馴染みの地名を手掛かりに、「追浜歴史散歩」がスタートしました。昨年で回を重ねて4回目。今年は、校歌祭と同じく、コロナの影響を考え中止しましたが、来年度以降も校歌祭と同じく、うしお会も協力して開催する予定です。「夏島、野島」を始めとして、憲法起草の碑や貝山緑地の予科練誕生の地碑など見所を絞り半日楽しく歩きながら、毎回新しい発見のある歴史散歩です。4期生で郷土史に詳しい青木さんを講師にお迎えして散歩を楽しんだ年もあります。

来年度は「山は鷹取」の鷹取山を中心には散歩コースを考えています。うしお会ホームページでも参加要項を掲載する予定ですので、ぜひご参加ください。こんな六場がありますよ！

学校長より



平成31年4月に第19代校長として着任いたしました布川勝也でございます。うしお会の皆様には、日頃より本校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

から、徐々に活動を拡大しています。臨時休業中は、「自学自習の促進」「学力の育成」により、ピンチをチャンスに変えようと生徒に呼びかけました。神奈川は家庭学習時間が全国最下位ですが、塾・予備校を学習時間に計上すると一躍全国トップとなります。私はこれを「力の付かない構造」と呼んでいます。

講義動画の配信をしていますが、その目的は「自学自習の促進」「自学力

「の育成」にありますので、「講義動画」で教え過ぎないようしています。分散登校期間中の登校日でない日には、朝のホームルームと面談をオンラインで実施しています。通常授業となつた後も、これらの成果を十分に生かしていきたいと思います。

追高祭（文化祭・体育祭）・耐寒訓練の近況をご報告します。長らく文化祭・体育祭の隔年交互開催を続けた追高祭は、令和2年度より体育祭6月末、文化祭7月初めの毎年両開催としましたが、現在は、後期に何ができるかを検討しているところです。耐寒訓練は、1年生原則参加、2・3年生希望者参加としていますが、職員の負担を考えると大幅授業カットが必要であり、2・3年生に与える影響を考えると授業カットを抑制せねばなりません。その矛盾を解消すべく検討を重ねています。

紙幅が尽きました。「生きる力」を育む「追浜方程式」「生きる力」（独立自主+協働）×文武両道」「校長室便り『シンフォニー』、HPに掲載しています。令和2年度入選は大変な高倍率でした。ここが正念場です。後戻りはできません。うしお会の皆様には、引き続きのご支援をお願いします。生徒も教職員も頑張っています。私も頑張ります。

追浜高校の一年



生徒会便り

こんにちは！生徒会執行部です。

私たち、日々の学校生活、行事などがより充実したものになるよう努力しています。

現在、生徒会執行部は生徒の声が反映される追浜高校を目指していま

す。在校生の八割の生徒が追高祭の体育祭と文化祭の両開催を希望していました。（今まででは体育祭と文化祭の隔年開催です。）そこで昨年度は、両開催実現に向け、体育祭と規模を縮小したミニ文化祭を実施しました。

前例がない中、生徒が楽しめるようにするにはどうしたらよいか、予算内で今まで以上の行事が創り出せるのか、何度も試行錯誤をした結果、大成功で幕を閉じることができました。

そして今年度は、本格的な追高祭の体育祭と文化祭の両開催を実施する予定です。生徒の声を活かした学行事を創り上げたいと思います。

また、昨年は学校外でも活動しました。十月には、神奈川県の黒岩知事との対話の広場地域版横須賀三浦会場「みんなでつくる！笑いあふれる三浦半島」に数名の生徒会執行部

でした。

十二月には

学校の最寄り

駅の追浜駅前

で、沖縄県の

世界遺産の首

里城火災を受け、支援金活動を行いました。五十六期

生は十月に修

学旅行で沖縄を訪れたばかりでしたので、

微力ながら何か元気づけることが出来ないかと考え行動しました。

地域の方々のご協力、本当にありがとうございました。

が参加させて頂きました。現在の神奈川県や、横須賀三浦地区の実態に触ることで、地域のために貢献できなかないと考えるきっかけになりました。

今までにない進化した追浜高校を創り上げることが、私の目標です。改善点は直し、良い点は伸ばしていくよう、生徒会長として引退までの残り少ない日々を考えて行動して

手探りの状態ではありますが、今後も地域に貢献できる活動を考えていきたいと思います。

今までにない進化した追浜高校を創り上げることが、私の目標です。改善点は直し、良い点は伸ばしていくよう、生徒会長として引退までの残り少ない日々を考えて行動して

いきたいです。そして、生徒全員が「追浜高校に来てよかつた。」と思えるような学校を目指します。

追浜高校をこれからもどうぞ暖かく見守って頂けたら幸いです。
生徒会長 五十六期 加藤まりあ



ミニ文化祭の様子



55期、56期、57期の生徒会執行部員の写真

うしお会創設55周年に寄せて

うしお会会长 7期生 永田 隆

今回の「活躍人」のお一人は、2018年世界フィールドアーチェリー選手権優勝の大貫渉さんです。さすが世界トップ選手、お会いして「落ち着き」と「オーラ」を感じました。

惜しくも東京オリンピック代表にはなれませんでしたが、競技活動はもちろん続けるとの事、今後の活躍を期待し応援したいと思います。

うしお会は今年創設55年を迎えました。50周年以降「ホームカミングデイ」「うしお会コンサート」「学年同窓会の追高グッズ販売」等実施。又、会員の皆様の協力により、学校・生徒に対し、通年支援とは別に「音楽室ピアノ寄贈」「生徒会館改修」「学習指導用机・椅子寄贈（職員室前）」「昼食パン販売用の机・椅子寄贈」等行いました。今後も継続支援します。

今年、「青春かながわ校歌祭」を、当番校として10月10日横須賀芸術劇場で開催予定でしたが「新型コロナウイルスの影響」で中止。来年は、去年台風で中止になった鶴見高校。再来年に、追浜高校が当番予定です。

今後共、会員相互の交流を図るよう努めてまいりますので、応援宜しくお願ひします。

近時、うしお会加入率が低下、今春卒業の55期生の加入率も65%と例年の90%を大きく下回りました。学校の協力を仰ぎ現役生へのアピール策を考え、加入率を高めたいと思います。

訃報：校歌祭のエールで活躍された3期生小林正義さんが、昨年1月亡くなりました。ご冥福をお祈りします。

事務局からのお知らせ

激動の令和2年。コロナの嵐は世界中を襲い、未だ終息の気配は全く見えません。東京オリンピックの延期。非常事態宣言、全国の学校の休校措置。自粛要請。追浜高校もうしお会もこの嵐に飲み込まれました。3月頭から休校となった学校は、再開後も分散登校、時差登校を経て、ようやく平常授業の道筋が見えてきましたが、学校の日常生活はまだまだ戻っていないようです。

うしお会の主催・後援行事である校歌祭もうしお会コンサートもホームカミングデーも中止。会報で参加を呼び掛ける予定だった行事が全て中止となり、多額の通信費のかかる、会員全員への会報発送を断念し、現役生徒への配布と、うしお会ホームページでのPDFスタイルでの公開をさせていただくことにいたしました。

前回もお知らせしたとおり、会報発送の通信費だけで100万円を超えますので、今回は、初のPDFスタイルでの公開を選択いたしました。ぜひホームページで会報を楽しんでいただければと思います。

前号で、同窓会を金銭的に援助していただきたいということで、寄付金のお願いしたところ、H29年9月より1期生から48期生まで延べ80人から60万円以上の寄付金をいただきました。（詳細はうしお会ホームページで紹介させていただきます。）

今後もご協力をいただけましたら、下記のうしお会口座にお振込みをお願いいたします。（期とお名前を必ず振込みの際にご記入ください。）

1期生から現58期生の高校1年生まで、強い絆で結ばれることが同窓会の願いです。追浜高校のますますの発展、うしお会活動の更なる活発化のために、ぜひ皆様の声をお寄せ下さい。

銀行振込口座番号	湘南信用金庫	追浜支店 119610	県立追浜高等学校同窓会
	横浜銀行	追浜支店 0108776	県立追浜高等学校同窓会

同窓会ホームページもご覧ください！

◆卒業生の活躍情報、お待ちしています。住所変更等のお知らせも受け付けています。◆

追浜高校うしお会の最新情報を更新中！

<http://追浜高校うしお会.jp/>

